

中野区教育委員会会議録 平成26年第5回臨時会

○開会日 平成26年8月4日(月)

○場 所 中野区教育委員会室

○開 会 午後 7時00分

○閉 会 午後 8時46分

○出席委員

中野区教育委員会委員長	小 林 福太郎
中野区教育委員会委員	渡 邊 仁
中野区教育委員会委員	高 木 明 郎
中野区教育委員会委員	大 島 やよい
中野区教育委員会教育長	田 辺 裕 子

○出席した関係職員

教育委員会事務局次長	奈 良 浩 二
副参事(子ども教育経営担当)	辻 本 将 紀
副参事(学校教育担当)	伊 東 知 秀
指導室長	川 島 隆 宏

○担当書記

子ども教育経営分野	片 岡 和 則
子ども教育経営分野	高 橋 綾 菜

○会議録署名委員

委員長	小 林 福太郎
委 員	大 島 やよい

○傍聴者数 0人

○議事日程

[協議事項]

- (1) 平成27年度使用教科用図書の採択について（指導室長）

中野区 教育委員会
第5回臨時会
(平成26年8月4日)

午後 7 時 0 0 分開会

小林委員長

ただいまから、教育委員会第 5 回臨時会を開会いたします。

本日の委員の出席状況は、全員出席です。

本日の会議録署名委員は、大島委員にお願いいたします。

本日の議事日程は、お手元に配付の議事日程表のとおりです。

それでは日程に入ります。

ここでお諮りをいたします。本日の協議事項「平成 27 年度使用教科用図書の採択について」は、採択過程における審議の公正を確保するため、「中野区立学校教科用図書の採択に関する規則」第 10 条第 1 項に基づき、会議を非公開としたいと思いますが、ご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

小林委員長

ご異議ございませんので、非公開とすることに決定いたしました。

(以下、非公開)

(平成 26 年第 24 回定例会における会議録の公開決定に基づき、以下非公開部分を公開)

<協議事項>

小林委員長

それでは、前回に引き続き、「平成 27 年度使用教科用図書の採択について」の協議を行います。

協議の進行につきましては、これまでと同様の方法により行いたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、初めに図画工作について、協議を行います。

各委員から順にご意見を伺いたいと思います。

それでは、大島委員、お願いいたします。

大島委員

図画工作は 2 者でございまして、開隆堂出版と日本文教出版でございまして。どちらの教科書も大変カラフルでもあるし、楽しそうでいいとは思いましたが、気がついたところで申し上げますと、開隆堂出版のほうでは、道具箱という巻末のコーナーで、はさみや、カッター、その他についての道具の使い方が出ておりますし、日本文教出版も巻末に道具の使

い方が載っております。

あと、開隆堂出版は、各巻の初めに、現役の美術家とか、画家、彫刻家などのメッセージと作品の紹介というのが載っているのが特徴かなと思います。「小さな美術館」ということで、作品の紹介もあります。日本文教出版のほうも、美術館の紹介のコーナーがあります。

開隆堂出版のほうは目次のところに、単元の後に主に使う用具とか材料が書いてありまして、これはなかなかいいなと思いました。あと、その目次のところで開隆堂出版のほうは領域が示してあるのですけれども、漢字の頭文字で書いてありまして、例えば工作なら「工」、鑑賞なら鑑賞の「鑑」という漢字で小さく書いてあるのですけれども、目立たないのです。日本文教出版のほうは五つの活動領域というのがありまして、それをマークで示していて大変わかりやすくなっております。

それと、各單元ごとに写真が載っているのが、とても中身がわかりやすくていいなと思います。

あとは、開隆堂出版の3年、4年の上巻というところに粘土をにぎって、ひねって、ひらめいてという單元があるのですけれども、もっと低い学年でやってもいい内容かなと思いました。同じような、粘土を握ったりしようというのが、日本文教出版のほうでは、1、2年の下巻のほうで「にぎにぎねん土」というのがありまして、3、4年では上巻で、やはり粘土なのですけれども、「ねん土マイタウン」といって、少し程度が高い粘土作品をつくるようになっております。その点は、日本文教出版のほうに学年にあっているのかなと思いました。

私が一番気になりましたのはページの使い方なのですけれども、片側のみで一つの單元というのと、見開き2ページを使って一つの單元というのがあるのですね。開隆堂出版のほうは、この片側だけで1單元。だから、隣のページは別の單元が載っていると、そういうところが1、2年から5、6年まで6冊あるのですけれども、計47か所あったのですね。日本文教出版のほうはあまりないのです。つまり、必ず見開き、両ページで1單元というふうになっているところがほとんどで、日本文教出版で片側ずつとなっているのは1年生の上下と3年生の上巻まで、それぞれ2か所ずつあるのですけれども、3年生の下巻から、あと5、6の上下、ここには全くないのですね。開隆堂出版の本は、同じ半ページといっても縦のサイズがちょっと大きいので半ページの大きさは大きいのですけれども、やはり見開きにしたときに、自分がきょうやる單元と違う内容のものがもう片一方のペー

ジに出ているというのは、何か意識が集中しないような気がして、やはりそれより一つの単元は見開きで両ページ使っているという点は日本文教出版がいいと思ったのですが、内容的にはどちらもいい教科書だと思いました。

以上です。

小林委員長

では、渡邊委員、お願いします。

渡邊委員

大きな差はこの2者にはないと思いました。まず見た目のことから言うと、大きさがA4判とA B判と言うのでしょうか、ちょっと大きさが違っていると。開隆堂出版のほうですけども、本を大きくしたメリットが十分に活かされているという気がしないでもないです。各単元についての量は、大体2者とも同じような容量、内容に思えました。

ポイントとして、芸術的な授業であるということで、美術館とか、鑑賞の指導とか、そういうものも少し多く取り入れているとか、いろいろな作業をするので道具の取り扱いの安全面とか、気をつけることとか、そういったものがよく書かれているかというようなことに、内容としては目を配ったつもりです。

そうすると、開隆堂出版には、表紙に芸術家の作品紹介などが出ていて、そういった芸術性があるのかなど。また、日本文教出版のほうも、美術館教育や作品展などの部分が盛り込まれているということで、この点についても大きな差はないなと思いました。ただ、道具の使い方を非常に丁寧に安全面に留意をされて書かれているのは、日本文教出版のほうはやや分があるかなど。ただし、開隆堂出版については、最後の方のページに「パレットコーナー」、「どうぐばこ」という形で、道具を一覧にあわせていて、そこに注意を書いていると。でも、どちらがいいかというところ、これも同じような、甲乙つけがたい部分があります。

構成については、大島委員が言われたように、各者とも五つに分類して、それぞれにまとめてある点については一緒だったと思います。ただ、開隆堂出版は巻末の道具ページで示しているとか、動物や植物を扱うときにアレルギー対応にも注意を置いているという安全のこととか、黄色い三角マークを用いた安全コーナーということで、安全に対する気配りがやや多いかなど。

授業のことで言うと、学習のめあてとかそういったものについて、日本文教出版のほうがかっちりよく書かれていて、たいせつなことにはアンダーラインが全部つけてあったり

とか、特に注意しなければならないことについては、「きをつけよう」という吹き出しの形で、ピンクでかわいらしく出てくる、そういったところの配慮がされています。

説明が細かいのは、日本文教出版がいい感じがするのですが、大きな差が、なかなかないです。ちょっと気に入っているのは、日本文教出版の道具アイコンがかわいらしいかな、わかりやすいかなというぐらいで、ちょっと決め手に欠けているのですが、使いなれている点などを考えれば、開隆堂出版がいいかなというふうに思いました。

小林委員長

それでは、次、高木委員、お願いいたします。

高木委員

各委員からもうご説明がありましたが、私も日本文教出版と開隆堂出版の2冊で、特にこちらのほうが際立っていいというのは、私が見る限りではちょっと感じられなくて、両方とも必要にして十分な項目が、もちろん検定教科書だから当たり前なのですが、載っているのかなと思っております。

各委員からもあったように、日本文教出版のほうが全体の説明に関してはやや丁寧なかなという気がしますが、一方、開隆堂出版のほうでは、既習事項の確認がしっかりされているとか、あと、「ゆめをかたちに」ということで、芸術家のコメントが載っているというところがアドバンストなかなと思っております。

あとは、主観の問題になってしまうのですが、私がやはり両方の教科書を見ると、もう50のおじさんの視点なのですが、開隆堂出版のほうが見ていてちょっとわくわくするのが多いかな。こんな作品をつくってみたいと思う気がします。ただ、小学生の視点で見るとまた違うのかもしれませんが、魅力的な作品の掲載とか、あと写真の撮り方に、やや開隆堂出版のほうに分があるかなという気がしました。

以上です。

小林委員長

それでは、田辺教育長、お願いいたします。

田辺教育長

各学校を時々訪問して授業を見ているのですが、あまり図画工作は教科書を使って指導はしていないで、基本的には学習指導要領にのっとりつつ各専科の教員が自分なりのいろいろな素材を提供して、子どもたちに想像力たくましく創作をさせているという状況があるということを前提に考えますと、教科書の役割は、子どもたちがいろいろな芸

術作品とか、いろいろな表現の作品に触れて、想像力をたくましくして、自分もこういう物をつくってみたいとか、そういう好奇心や知的なものを刺激するような教科書がいいのかなと思いました。

そういう観点で見てきたわけですが、各委員がおっしゃっているように、それぞれ遜色ない編集になっていて甲乙つけがたいのですけれども、私は開隆堂出版のほうが、写真がすごくはっきりしていて、教科書全体がカラフルな形で表現できているのではないかなと思いましたし、「小さな美術館」とか、それぞれ巻頭に芸術家の一言コメントがあったり、子どもたちの知的なものを刺激するのは、より開隆堂出版のほうがあるのかなという気はいたしますけれども、先ほど申し上げたように、どちらもバランスよい編集の仕方であるということは変わりませんので、どちらを取っても、中野の子どもたちは十分に対応できていると思っています。

小林委員長

最後に私の意見を申し上げます。

私も、各委員から出たように、この2者とも、それぞれしっかりとしたい内容の教科書であると思います。全体的に見ると、やや大判になっている開隆堂出版のほうが見応えがあるのでしょうか、そういうメリットを生かしているなと思います。

一方で、これも委員の方々からもご指摘があった安全指導へのアプローチという点では、日本文教出版は勝っているかなと感じました。ただ、これも先生方が現場でかなり細かく指導されると思いますので、特にそれでの差は大きくつかないのかなと思いました。この中で、右下に「ふりかえって、はなしあおう」というのが、ずっと開隆堂出版のほうに出ているわけですが、この部分はある程度共通して指導する側がうまく使うと、使いやすいのかなと感じました。

あと、開隆堂出版のほうでは、いわゆる日本人の新進気鋭のアーティストをここに載せているという部分は、子どもの視点からすると魅力的なのかなと感じました。私も、両者一線上にありますので、そういう意味では、現行のものでいいのかなということを思っていますが、これは全体のバランスで、各委員の方のご意見のバランスで決めていけばいいかなと考えております。

私からは以上でございます。

それでは、ほかにご意見があれば、発言をお願いいたします。

大島委員

私も開隆堂出版は中の題材とかがとてもきれいで魅力的だなと思ったのです。ただ、さっき言ったように、片ページだけで1単元というので、先生が授業をしたり、教えたりするときに、そのことは特に支障にならないのかどうかちょっとそれだけ気になるのですが、どんなものなのでしょう。

指導室長

見開きというのは確かに見た目は同じ共通情報が入ってきますのでわかりやすいかなと思いますが、図工の授業を見ていると、「教科書の何ページを開いて」というのは、先ほど教育長がおっしゃったようにあまりないと思うのですね。その部分を、例えば拡大機などを使って映像で大きくテレビに写してという形で、もしイメージを伝えたいならばそういう使い方をすると思うので、教科書の片面か両面かというのはあまり大きな要素ではないのではないかなとは考えます。

小林委員長

ほかにいかがでしょうか。ほかにご意見はよろしいでしょうか。

これまでの各委員からのご意見で、全体的に見ると開隆堂出版がやや分があるかなというふうに思いますけれども、各委員のご意見を総合して、開隆堂出版ということで、よろしいでしょうか。

それでは、ここでお諮りをいたします。ただいまの協議の結果、図画工作については開隆堂出版を採択候補とすることで、ご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

小林委員長

ご異議ございませんので、図画工作については開隆堂出版を採択候補とすることに決定いたしました。

それでは、教科書を入れ替えますので、休憩いたします。

午後7時21分休憩

午後7時22分再開

小林委員長

では、再開いたします。

次に、家庭について協議を行います。

各委員から順にご意見を伺いたいと思います。まず、渡邊委員、お願いをいたします。

渡邊委員

家庭も、東京書籍と開隆堂出版の2者から選択ということになりまして、全体的に2者でどちらがすぐれているというようなもの、それぞれの単元の内容、そのボリュームについても大きな差はないように思われます。

内容については、東京書籍が問題解決的な流れになっていると。全体的にこれだけではできるようにしようとか、それぞれの工夫とか、学び方や考え方にはわかりやすい形で表現されているというように思います。ただ、それが最初から示されているほうがいいのかどうかという点についてはどうかと思います。

構成ですけれども、基礎を見据え、いつも確かめようという形でこれを見ていまして、終わった後に、学習のめあてや振り返ろうというふうに、東京書籍は書いています。ただ、開隆堂出版でも学習のめあてとかできたかな、振り返ろうとして、それを生かすような内容を盛り込んであって、大きく差がないように思います。

表現的には、開隆堂出版のほうの写真を多く利用している。そして、東京書籍のほうは、どちらかというイラストを中心に描かれているかなと感じております。

以上です。

小林委員長

では、次に高木委員、お願いいたします。

高木委員

家庭につきましても、東京書籍、開隆堂出版、2者とも、必要な項目は全部そろっている教科書なのかなと思っております。あえて言いますと、渡邊委員からもご指摘がありましたが、東京書籍の家庭科の基礎技能と、いつも確かめようというところで、振り返りができると。ここのところは少しわかりやすいのかなという気がします。

あとは、主観的な感想なのですが、開隆堂出版の構成が、ややフォントの大きさの種類がバラエティに富み過ぎて、これは前も言ったのですけれども、50のおじさんにはちょっと目がつらいかなという印象があって、東京書籍のほうは、やや安定しているというか、レイアウトのところがオーソドックスというか、読んでいて読みやすいところかなと思います。見たときに、どちらが小学校5、6年生にわかりやすいかということ、またそこは議論があるのかなと思うのですが、その見やすさ、全体の構成ということだと東京書籍のほうが少ないかなと。開隆堂出版も悪くはないので、それぐらいの差しか感じられませんでした。

小林委員長

次に大島委員、お願いいたします。

大島委員

私も見ましたところ、扱っている単元は同じですし、どちらもいいと思いましたがけれども、中を見ますと、ほとんど同じというのが、例えば、夏の涼しい暮らしとか、冬を快適にというところ、それから裁縫についてのところも、差がないように感じました。

ただ、やはり大きく差があるのが、調理のところです。調理とか、食事とか、そういうところで、開隆堂出版のほうがかく写真がいっぱいあって、それで、例えば野菜を入れるなんていうところも、お鍋の写真から始まっていて、全部写真でわかるようになっていて。東京書籍はイラストが多いところですね。その辺、開隆堂出版のほうがかく全部写真で説明しているというのがすごく特徴で、これはすごくいいなと思いました。ただ、今、高木委員のお話で、確かにちょっと開隆堂出版のほうがかくいろいろな情報を詰め込んでいる感じがしないでもない。東京書籍のほうがかくちょっとゆったりした感じというのは確かにあるかなと思うのですが。

あとは、例えば、ご飯とみそ汁という単元でも、東京書籍はご飯を炊く過程の写真で、観察記録を書くようになっていて。お米を量るとか洗うというところはイラストになっているのですけれども、開隆堂出版は米粒の比較まで出ていて、非常に詳しく写真で出ていて、その辺の視覚的なインパクトはすごくあるなとは思いました。

あと、お金の使い方とか買い物についてのところで、東京書籍のほうは、片側のページの真ん中のところに、ノートの買い方というところが出ています。ノートに限定した買い物ということ扱っているのですけれども、開隆堂出版のほうは2ページ見開きで、ノートに限らず買い物の手順ということが説明してあるとか、その辺の扱い方がちょっと違うかなというところでは。

あとは、開隆堂出版がいいなと思ったのは、ページのところに、領域別に黄色とか、青とか、ピンクとかというインデックスで色分けがしてあって、どれがどこら辺にあるのかというのがすぐ開けるようになっていてというのはいいかなとは思いました。

あと、東京書籍のほうは、学習のすすめ方というページもありまして、見つめよう、計画しようとか、そういうところが示されているというのは、とてもいいと思います。

開隆堂出版のほうは、5年の初めの目次のところで、2年間を通しての学習の目当てみたいところがわかりやすく出ているのはいいかなと。5年でやること、6年でやることというのが出ているところは、いいかなとは思いました。

全体にどちらがいいかというところ難しいのですが、開隆堂出版のほうが、さっき言った写真のインパクトがすごくありますし、食育というところをすごく重視している感じで、食事についてのページのところでも、まず栄養素というところをすごく強調して、たんぱく質とか、いろいろなそういう栄養素で体がつくられているとかと、その辺の食育意識もなかなか高いので、いいのではないかなと思ったのです。

小林委員長

それでは、次、田辺教育長、お願いします。

田辺教育長

私も、今それぞれの委員の方がコメントなさったように、開隆堂出版も東京書籍もバランスよい編集だと思って、見させていただきました。

ただ、私はもう50年近く前に家庭科を習っていて、調理と裁縫みたいなイメージがあって、技術を習得するみたいな思いが記憶の中にあるのですね。ですので、裁縫とか調理というところのページを見ますと、大島委員が指摘されたように、技術の習得という意味では、開隆堂出版のほうがすごくわかりやすいし、表題と、それから写真が大きくあるのですけれども、例えば「始めてみよう、ソーイング」のところ、18ページ、きちんと針を持って、ボタンを刺しているという写真なのですけれども、東京書籍のほうは18ページになるので、机の上で何か子どもが鉛筆を持って定規を引いているみたいで、どちらかというと、針を持っているという写真ではないので、何かイメージしにくいなと思いました。

それから、それぞれの手順なんかも、開隆堂出版のほうは段取りがすごくわかりやすく、オレンジか、黄色の線で、それぞれ区切りながら指導をしているということで、東京書籍よりは技術の習得という意味では丁寧なのですけれども、家庭科ということが、生活全般をうまく乗り切っていく、家族との関係とか、地球環境のこととか、幅広く生活技術を身につけて、賢く生活していくということを学ぶものだというふうにと考えると、さまざまな視点が盛り込まれている東京書籍もいいのではないかと思います。

例えば日本の伝統を意識したコラムがあったり、それから専門家に聞くというようなアドバイスのコーナーがあったりということでは、キャリア教育というような視点とか、伝統教育というような視点も取り込んでいる東京書籍も、やはりなかなかバランスのいい編集なのではないかなと思っていて、個人的に言うと開隆堂出版なのですから、何ともこれがいいということにならないのですけれども。

小林委員長

それでは、最後に私の意見を申し上げます。

私も各委員からのお話と非常に重複いたします。全体的な内容区分とか、量とか、バランスは、両者とも非常に精巧にできていますし、甲乙つけがたいと思います。基本的な知識とか技能を取り上げるという点では、今、各委員からもお話がありましたように、食育に関して開隆堂出版はかなり長じているというような印象は、実際にページ数も多いですし、全体の構成もそのような形をとっています。特に表紙の裏などもフルに使って、皮のむき方とか、野菜のむき方とか、もうありとあらゆるところにそうしたものが満載されているという印象がございます。

ただ、やはり見やすさという点で構成されているのは、確かに、これも各委員からお話がありましたように、東京書籍が長じているということで、私自身も両者は甲乙つけがたい状況があるかなと考えているところでございます。

ほかにももう少ししぼり込む形でのご意見はございますでしょうか。

大島委員

両方とも話題としては同じようなことを取り扱っているとは思いますが、ちょっと気がついたのは、開隆堂出版のほうの14ページのところで、後片づけの仕方、調理の後片づけですけれども、これで詳しく包丁とかいろいろなが出ていますが、下のほうに汚れた水を戻すにはということ、例えば使用済みの油のこととか、台所の洗剤のこととかという地球環境保護の観点からの、図入りでそういう話題を取り上げているとか、それから生ごみの始末の工夫ということ、ごみの出し方についても出ているのですけれども、それから分別のこととかも出ています。これに対応する東京書籍はどうかと思いますと、13ページの右下のほうに片づけるというところがあるのですが、1コラムぐらいのほんの小さいところで、そこにちょっと書いてあるんですね。こういう地球環境とか、エコとか、消費者としてのごみの分別とか、その辺については、やはり開隆堂出版がかなり詳しくて、この点はよいのではないかと思います。

小林委員長

ほかにはいかがでしょうか。

高木委員

先ほどから各委員が、食育というか、調理のところは開隆堂出版のほう詳しいのではないかとご意見があったと思うのですが、私もそうかなと思います。例えば日

本茶を入れるというのは5年生の最初にやると思うのですが、東京書籍の11ページのところでお茶の入れ方が入っているのですが、開隆堂出版が8ページ、9ページでお湯の沸かし方から、両方入っているのですけれども、やはり沸いた状態のところを、開隆堂出版のほうはちゃんと蒸気が出て確認をするのだよとか。電気ポットで沸かしている家も多分多いと思いますので。あるいは、私がちょっと違和感を感じたのは、東京書籍の11ページのところで、お茶うけでクラッカーが出ているのですが、そういうお家もあるかなと思うのですけれども、やはりここは日本の伝統的な飲み物のお茶を紹介するのであれば、クラッカーではないかなと思います。

また、東京書籍ですと、16ページでゆでたまご、開隆堂出版は12、13ページで、ゆでるプロセスについても、鍋で水がかぶるぐらいというのが写真で入っていて、沸騰の状態も泡がぶくぶくしているもの、殻をむくについても、水の中に入れて、それでむくとむきやすいと写真で説明してあります。東京書籍は、過不足はないのですけれども、その鍋の写真はないので、5年生ぐらいで初めてゆでたまごをつくるお子さんがいるとすると、開隆堂出版のほうはやや詳しいのかなと思います。

個人的には、僅差で開隆堂出版かなというところがございます。

小林委員長

ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

両者とも拮抗した内容でということですが、本区において、環境教育であるとか、食育といった視点から、重視している内容ということで開隆堂出版を推す意見が出てまいりましたけれども、ほかによろしいですか。

それでは、ほかにご意見がないようですので、全体的に開隆堂出版というご意見が強いようですけれども、家庭については開隆堂出版でよろしいでしょうか。

それでは、ここでお諮りをいたします。ただいまの協議の結果、家庭については開隆堂出版を採択候補とすることで、ご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

小林委員長

ご異議ございませんので、家庭については開隆堂出版を採択候補とすることに決定いたしました。

それでは、教科書の入れ替えのため、休憩いたします。

午後8時00分休憩

午後 8 時 0 1 分再開

小林委員長

それでは、再開をしたいと思います。

次に、保健について協議を行います。

各委員から順にご意見を伺いたいと思います。まず、高木委員、お願いいたします。

高木委員

保健は、5者から教科書が出ておるところですが、実際の時間数は少ないので、2学年で1冊で、なおかつすごく薄い。3、4年に関しては、どこの会社も30ページぐらい、5、6年についても50ページぐらいの非常に薄いところがございます。各教科書会社も必要なところは大体網羅されているので、あとは全体の構成の展開なのかなと思うのです。

まず、現行使用している学研教育みらいでございますが、もちろんこれは非常に過不足なくできていて、ここの特色としては、絵図や、イラスト、写真が非常に多いというのが特色なのかなと。例えば写真は、ほかの会社が70から100ぐらいですが、もう170点ぐらいと抜群に多いです。それはわかりやすいと取るのか、細々しているのと取るのかはちょっと判断が分かれるところでございます。また、絵図、イラストに関しても、他が400から500のところを640ということで群を抜いて多いですね。その分、やはり字面は減っている。若干学研教育みらいと、あと文教社の判が少し大きいです。

あと、一番関心を持って見たうちの 하나가、5年生の喫煙のところと、ドラックのところでございます。やはり小学生の段階で喫煙の害や違法ドラックについてしっかり教えているというところを、特に最近の危険ドラックですかね、いわゆる従前と言う脱法ドラックみたいなところのベース部分が、しっかり高学年で教えられているのかというところを見たのですが、これに関しては、そんなに各者違いがなかったかなと思います。必要にして十分なところを見られているのかなと思います。

もう一つは、3、4年の単元のところで、これも非常に判断が難しいですけれども、第二性徴に伴う体の変化のところでございます。学研教育みらいのところは、9から10歳の子どもと、「大人」と題した、体操服を着た写真があるのです。男子と女子なのですが、「大人」と書いてあるのですけれども、見た感じがちょっと大人かどうか微妙で、この写真を見ても第二性徴のところぴんとこないかなと。逆に言うとマイルドでいいという考え方もあると思うのですが、非常にマイルドで、もうちょっと今の時代でいうと、踏み込んでやってもいいのかなという気がします。

そういう点からいいますと、一番そこがしっかりできているのは東京書籍ですね。3、4年生で言うと、ページ数で言うと20ページ、21ページで、1年生、6年生、大人、大人もこれは多分20代後半か30ぐらいのかなり成人というか、これを見るとやはりかなりはっきりと体格の差がわかる。水着を着ていますが、ごく自然に男女の体つきの違いが出てくるというのがわかるのかなと。右側にイラストが入っていますが、このイラストも、許容範囲で非常にわかりやすいイラストかなと。次の22ページに、性器のことも入っていて、東京書籍がその部分については特にアドバンスがあるかなと思いました。

私からは以上です。

小林委員長

それでは、大島委員、お願いいたします。

大島委員

5者の中で、各者それぞれ特徴もあるのですが、私がちょっと気になったのは、単元のタイトルが、一部ページの右から始まって、その裏ページにつながっているという単元があるという教科書があつて。例えば文教社や光文書院は、単元が一部そういうわけで右ページから始まって裏に続いているというのがありまして、例えば飲酒の害とか、薬物の濫用とか、例えばそんなような単元ですけれども、それがやはりちょっと見にくいと。ほかの教科書は、右と左の見開きで一つの単元というふうになっていて、それがやはりちょっと使いやすいし、見たときに感じがいいなということです。

あと、大日本図書は、色が濃くないので見やすい感じはしたのですが、大人に近づく体つきの変化のところが、服を着たイラストのみなので、これはちょっとわかりにくいかなという点です。それと、大日本図書は割とイラストで示されている例が多いので、ちょっとイメージが沸きにくかったかなというようなこともありまして、やはり東京書籍と学研教育みらいが、この中ではいいのではないかと思ったのですが、どちらもなかなかいい教科書で、東京書籍のほうは、各タイトルの横に学習の課題とか、学習活動というのが必ず全部の単元で示されていて、どういうふうに学習するかという目当てがはっきり出ていて、学習していく課程がすごくはっきり示されていて、やることを手取り足取り示してくれているという感じでとても丁寧ですし、見た感じもすごくきれいで、タイトルも、左上にあるのですが、それが大変きれいにそろっている感じでいいなと思いました。

学研教育みらいのほうも、タイトルの下に何々はどうすればいいでしょうかというよう

な学習活動についての指示が書いてあります。それから、調べてみようとか、考えてみようというような指示があるのですけれども、東京書籍に比べると、さりげないというか、ちょっと目立たないように書いてあります。積極的に指示しているような感じが、ちょっと紙面上は薄いというか、それは私個人的には、やや控え目なところの感じがよかったかなと思うのですけれども。それと、学研教育みらいのほうは、もっと知りたいとか、調べたいというようなコーナーがありまして、例えば不安についての単元では、脳の中の写真を示していて大変おもしろい。つまり、ちょっと進んだ発展的内容のことも結構詳しく知識として出てきていまして、インフルエンザとかA I D Sの病原菌の写真もそうなのですけれども。その辺がちょっと知的好奇心を刺激して、おもしろいかなと思ったりしまして、そういう点、学研教育みらいのもいいかなと思います。

でも、東京書籍も、高木委員のお話にもあったように、すぐれているところがありますし、はっきり指示があるので、学習を進めやすいのかなというふうにも思いました。

小林委員長

では、渡邊委員、お願いします。

渡邊委員

保健ということで、体の変化とところで見ますと、イラストで表されているのが文教社と大日本図書、そして、光文書院、東京書籍、学研教育みらいが、写真、イラストです。高木委員が指摘されたように、学研教育みらいの「大人」という表現で出ている写真については、やはり違和感がありました。

そして、その次に、初経とか月経の記載については、光文書院はよく書かれています、その点について非常にわかりやすく書かれているのは文教社と大日本図書です。ただ、ここまで詳しく書く必要あるかどうかということについてはあると思いますけれども、東京書籍は、月経の仕組みは「広げよう」という形で中に組み込まないで、少し枠を変えて出しているところが、よいのではないかなと思っております。東京書籍の手法はうまいかなと思います。

5、6年生の教科書では、心の問題に注目させていただきました。今どこでもメンタルヘルスケアということが一番言われていて、学校の中でも、心の傷ついた子どもたちへの対応が難しいのではないかなと。そこに、いろいろとコミュニケーションの方法とかが書かれているのですけれども、この中で悩んだときにここに連絡すればいいのだというふうに連絡先が書いてあるのは、東京書籍と光文書院です。もう一つ、学研教育みらいも書い

であるのですけれども、イラストで、いろいろなところに電話してくださいみたいに書いてあるのですけれども、小学生が電話番号を調べて、ここに電話しようというのは、難しいのかなと。そうしたら、この授業で見て、どこかに書いてあったぞ、ここに書いてあったぞというところで見直すのであれば、光文書院と東京書籍が、こういった部分に記載があるというところについてはよろしいかなと。そうすると、3、4年生、5、6年生、体の成長と心のことを見ますと、東京書籍がうまく書かれているかなと思います。

あと、文教社はiPS細胞の話を取り入れたり、AIDSについて学研教育みらい、光文書院も書かれていますが、それよりも、子どもが生活する、運動や食事、休養や睡眠がもたらす効果とか、そういったことをきめ細かく書かれている東京書籍は、保健の教科書としては、ややバランスがいいのではないかと思います。また、目次づくりが東京書籍は非常にうまくできているのではないかと。だから、子どもたちが見て、自分たちが活用できるということでも、東京書籍がよろしいのではないかと感じております。

小林委員長

それでは、次に田辺教育長、お願いいたします。

田辺教育長

既に各委員からさまざまコメントをいただいています、私も同じような感想を持っておりまして、とにかく保健は時間数も少ないということで、学ぶ手法としてきちんと学習内容が定着するということが大事だろうと思ひまして、そういう意味では、やはり各委員がおっしゃっているように、東京書籍が学習の課題、それから、振り返ってみよう、考えてみようという学習活動が明確になっているだけでなく、各單元ごとに学習を振り返ろうというページが組まれていて、また、いろいろ記入もできるようになっていて、この教科書を使いながら、きちんと自分の考えをまとめていくということも、しやすい教科書だなと思ひました。

それに近いのが学研教育みらいで、学習のまとめというような振り返りのページがあったりもするのでありますが、第二次性徴の表現では、各委員がおっしゃるように、東京書籍のほうがよりよいのではないかなと思ひましたので、東京書籍を推したいと思ひます。

小林委員長

最後に私の意見を申し上げます。

各委員から数々のご指摘がありまして、私もほぼ同様の考えを持っております。一つは、やはり性教育という第二次性徴の部分ですが、これに関しては、各者とも工夫があるので

すが、東京書籍はやはりバランスよく書かれてあると。特に成長が早まっているということ考えたときに、3、4年生の段階でしっかりと。ただし、先ほど渡邊委員がご指摘のように、あまり細か過ぎてもということです、そういう点ではバランスよく書かれてある。

それから、人権上の視点からちょっと一つ、東京書籍は35ページにA I D Sに関する部分があるのですが、そこに「ともに生きる」という見出しがあるのですが、これは非常に大事な視点であって、そのほかでは、ただA I D Sの実態とか状況とかなのですけれども、ここまでは人権上の視点で踏み込んでいないというのがちょっと残念なので、そういう点では、東京書籍はすぐれているかなと思います。

さらに、心の健康という点の部分で、5、6年生で、コミュニケーションとか人とのかわりの広がり、いわゆる健康は肉体的なものだけではなくて心身ともに健康であるという部分が全体的に貫かれているという点でも、本区においては東京書籍がふさわしいかなというふうに感じたところでございます。

ほかに各委員からご意見ございますか。よろしいでしょうか。

大島委員

先ほど渡邊委員からお話がありました相談窓口について、ちゃんと心の悩みとかの相談窓口の連絡先、電話番号とかまできちんと出ているという、それは私も東京書籍の大変いいところだと思いました。そんなことで、東京書籍ということではよろしいのではないかと思っているところでございます。

小林委員長

それでは、各委員とも東京書籍というご意見ですが、保健については東京書籍でよろしいでしょうか。

それでは、ここでお諮りいたします。ただいまの協議の結果、保健については東京書籍を採択候補とすることで、ご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

小林委員長

ご異議ございませんので、保健については、東京書籍を採択候補とすることに決定いたしました。

次に、特別支援学級で使用する教科用図書について、協議を行います。

事務局から説明をお願いいたします。

指導室長

それでは、特別支援学級で使用する教科書につきまして、ご説明を申し上げます。

今回は、小学校の採択替えということで9教科についてご議論いただきましたが、特別支援学級で使用する教科書につきましては、毎年、それから小学校、中学校、それぞれの特別支援学級の教科書を採択していただく形になります。

根拠法令ですが、学校教育法附則第9条、それから同法施行規則第139条の規定に基づきまして、検定教科書以外にも「その他の適切な教科書を使用することができる」という規定があります。これに基づきまして、各特別支援学級の設置校は、在籍をしている児童・生徒の障害の種類とか、それから程度や、能力、特性に最もふさわしいものを選ぶという形になります。選ぶ対象なのですが、検定教科書であれば低学年の教科書とか、それから文部科学省が著作の名義を有している教科書、いわゆる星本、それから学校教育法附則第9条に基づいた一般図書、この三つの中から選ぶ形になります。

中野区では、この一般図書を採択にするに当たりまして、中野区立学校教科用図書採択に関する規則により、当該特別支援学級を設置している区立学校の校長の意見を聞くものとされておりまして、これに基づいて各設置校がこの教科書を使いたいということをリストアップしてきたものが、資料に記載のものという形になります。小学校では、桃園小学校、中野神明小学校、新井小学校、大和小学校、西中野小学校、江原小学校の6校、中学校は、第二中学校、第四中学校、第七中学校の3校という形になってございます。先ほど申し上げたように、在籍する児童・生徒の障害の状況が異なりますので、その学校、学級ごとに選んでもらっている形になります。

「検定教科書」と書いてあるところの右側には、何も特に記載がされていないのは、今回、特に小学校のほうでは、採択替えの年になりますので、そこについてのコメントは書かない形になってございます。

説明は以上です。

小林委員長

それでは、各委員から、質問等、ご発言がございましたら、お願いをいたします。

大島委員

今のご説明の確認なのですが、資料で出ている書籍というのは、各学校で実際に在籍している生徒を念頭に置きながら、その子にはこういうものが適切だからということを具体的に考えて、学校のほうでふさわしいものをリストアップしたというような理解で

よろしいのでしょうか。

指導室長

今、大島委員がおっしゃったように、その学級の子どもたち、現在在籍している学年のお子さんは、大体どのような障害の特徴があるかというのを各学級は把握をしていますので、そのお子さんに基づいて一番適切なものということでリストアップをしているのであります。

小林委員長

これは、各在籍している子どもをもちろん想定してということですが、いわゆる個別指導計画とのかかわりという点では、どういうふうに教育委員会として把握をしているのでしょうか。

指導室長

特別支援学級に在籍するお子さんに関しては、個別指導計画がございます。当然、個別指導計画の前提になるのは、そのお子さんの障害の特徴とか、重さとか、そういうことになっていますので、その個別指導計画に基づいて、どういうところの力を身につけさせるべきかということを各学校では把握をしていますので、それに一番適している教科用図書という形で選んでいるというふうに理解をしております。

小林委員長

わかりました。

ほかにいかがでしょうか。

高木委員

中学の特別支援学級用の図書で、二中なのですが、書写と、それから社会の1年、3年、理科、あと美術、保健体育、英語、全部、検定教科書になっているのですが、これは通常の1、2、3年の検定用教科用図書をそのまま使うということでしょうか。それとも、例えば1学年だけを使うということなのでしょうか。

指導室長

まず、1年生というのは、当然1年生の学年のものというふうに理解をしますが、例えば理科で1、2、3、全て検定教科書と書いてありますけれども、例えば2年生のお子さんにどれを使うかというところまでは、把握をしてございません。

高木委員

どの学年がどれということは別にして、基本的には、二中の場合は、書写、理科、それ

から美術、保健体育、英語に関しては、一般図書ではなくて教科用図書で対応していくということによろしいのでしょうか。

指導室長

そういう形になります。

小林委員長

ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、特別支援学級で使用する教科用図書については、資料の記載の教科書を採択候補とすることで、ご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

小林委員長

ご異議ございませんので、特別支援学級で使用する教科用図書については、資料に記載の教科書を採択候補とすることに決定いたしました。

それでは、これで全ての種目の教科書についての協議が終了しましたので、事務局から、採択候補として決定した教科書及び今後の採択スケジュールの説明をお願いします。

指導室長

今回の採択候補として決定した教科書について、再度、教科順に確認とご説明をいたします。

まず、国語ですが、光村図書出版株式会社の「国語」。書写が日本文教出版株式会社の「小学書写」。社会が東京書籍株式会社の「新編 新しい社会」。地図が株式会社帝国書院の「楽しく学ぶ小学生の地図帳」。算数が東京書籍株式会社の「新編 新しい算数」。理科が教育出版株式会社の「みらいをひらく小学理科」、生活が教育出版株式会社の「せいかつ」、音楽が教育出版株式会社の「小学音楽 音楽のおくりもの」、図画工作が開隆堂出版株式会社の「図画工作」、家庭が開隆堂出版株式会社の「小学校 わたしたちの家庭科」、保健が東京書籍株式会社の「新編 新しい保健」。

特別支援学級で使用する教科書につきましては、本日の教育委員会資料に記載の教科書が採択候補となります。

続きまして、今後のスケジュールについて申し上げます。8月8日に開催予定の定例会におきまして、先ほどの採択候補の小学校用教科書、特別支援学級で使用する教科書、また中学校用教科書について、議案として、改めてご審議を願いたいと思います。

以上でございます。

小林委員長

採択候補として決定しました教科書については、事務局の報告のとおりであります。全体を振り返って、各委員からご意見等、ご発言はございますか。よろしいでしょうか。

それでは、ただいまの採択候補として確認しました教科書につきましては、昨年度採択しました中学校用教科書とともに、8月8日の定例会において、議案として審議することにご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

小林委員長

ご異議ございませんので、本件、教科書採択については、8月8日の定例会において、議案として審議することといたします。

次に、非公開としてきました本件採択過程にかかわる会議録の公開の取り扱いについて、事務局から説明をお願いいたします。

副参事（子ども教育経営担当）

これまで、本件教科書採択にかかわります教育委員会の会議につきましては、採択過程における公正の確保等の観点から非公開としてまいりましたが、8月8日の定例会におきまして、本件教科書採択にかかる議案が可決されました場合には、本件教科用図書の採択にかかる教育委員会会議録の公開につきましてご審議いただき、本件会議録における非公開部分につきまして、個人情報に該当する部分を除き、公開する旨の決定をいただくものでございます。

公開の決定をいただいた場合の当該会議録の公開時期につきまして、その作成に一定の期間を要しますことから、当該会議録が調製され次第の公開となりますが、時期につきましては、おおむね9月中旬ごろを見込んでおります。なお、本件会議録の公開の方法につきましては、区政資料センターに一式を備えるとともに、教育委員会ホームページにおいて、会議録の掲載をいたします。

また、選定調査委員会の資料等を含めました本件教科書採択にかかる一連の資料につきましては、学校教育分野の担当を窓口といたしまして、本件会議録とともに一括して備え置きまして、公開につきまして対応する予定でございます。

説明につきましては以上でございます。

小林委員長

それでは、本件会議録については、ただいまの事務局の説明のとおり、8月8日の定例会での教科書採択後、会議録の公開について、議案として審議することにご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

小林委員長

ご異議ございませんので、本件会議録の公開については、8月8日の定例会での教科書採択後、議案として審議することといたします。

以上で本日の日程は、全て終了いたしました。

これをもちまして、教育委員会第5回臨時会を閉じます。

午後8時46分閉会